

# 中小企業景気動向調査

〔2012年10～12月期の景況/2013年1～3月期の予想〕

## 【調査要項】

実施期間:2012年11月26日～12月7日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 965社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	424	127	72	30	146	39	34	93	965
回答数	383	112	63	28	136	34	31	83	870
回答率(%)	90.3	88.2	87.5	93.3	93.2	87.2	91.2	89.2	90.2



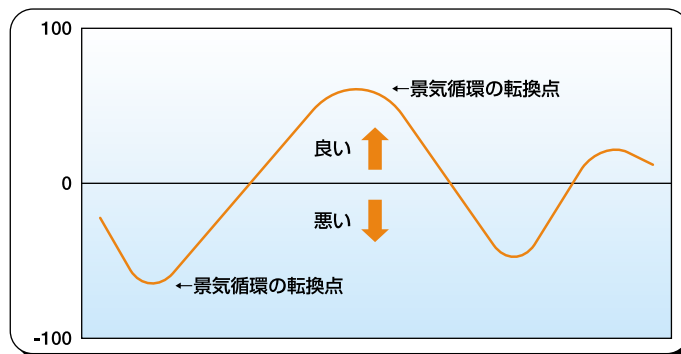
## DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

10～12月期の景況

- ・製造業の景況感が3四半期連続で悪化。とくに自動車部品はエコカー補助金の終了や輸出の減少で大幅に悪化。
- ・非製造業は、すべての業種でマインド低下。

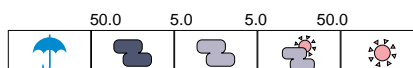
1～3月期の予想

- ・製造業、非製造業ともに、さらに悪化の見通し。
- ・自動車部品、飲食業、不動産業、運輸業は改善を予想。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (7～9月期)	今期 (10～12月期)	予想 (1～3月期)	業種	前期 (7～9月期)	今期 (10～12月期)	予想 (1～3月期)
全産業	11.4	23.7	27.9	印刷	60.0	10.0	30.0
製造業	9.9	25.3	32.8	食料品	32.2	17.3	37.9
非製造業	12.4	22.3	24.0	卸売業	17.9	22.4	31.5
自動車部品	9.2	53.4	38.9	小売業	28.6	34.9	37.7
機械器具部	10.1	14.4	24.5	飲食業	35.7	70.4	53.9
金属製品	20.9	27.5	33.4	建設業	5.2	6.6	8.2
窯業・土石	25.0	16.6	50.0	不動産業	11.4	14.8	6.0
木材・木製品	9.1	25.0	0.0	運輸業	21.4	35.5	30.0
繊維製品	7.1	14.2	28.6	サービス業	18.9	20.8	25.7

数値は業況判断DI



## 業況判断

## 製造業、非製造業ともにマインド悪化

## 〔全産業〕

- 10～12月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス23.7となり、7～9月期（マイナス11.4）に比べ12.3ポイント悪化した。

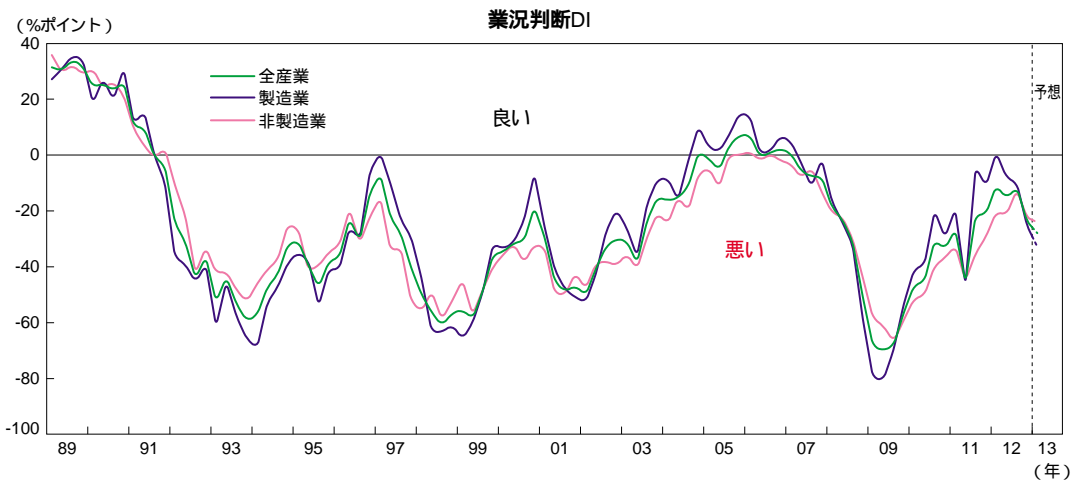
	前期 〔7～9月期〕	今期 〔10～12月期〕	予想 〔1～3月期〕	変化幅			
				前期	今期	今期	予想
全産業	11.4	23.7	27.9	-12.3		-4.2	
製造業	9.9	25.3	32.8	-15.4		-7.5	
非製造業	12.4	22.3	24.0	-9.9		-1.7	

（単位：%ポイント　　はマイナス）

- 1～3月期の**予想業況判断DI**はマイナス27.9と、4.2ポイントの悪化が見込まれている。

## 〔製造業〕


- 業況判断DI**はマイナス25.3。7～9月期（マイナス9.9）に比べ15.4ポイント悪化した。悪化は3四半期連続。
- DIが改善したのは、窯業・土石、木材・木製品、印刷、食料品。悪化したのは、自動車部品、機械器具部品、金属製品、繊維製品。
- 自動車部品の悪化幅は62.6ポイント。リーマンショック後や東日本大震災後の悪化幅に匹敵する大きさ。
- エコカー補助金の終了にともなう自動車の減産や、中国向け・欧州向けの輸出が減少したことが響いた。
- 予想業況判断DI**はマイナス32.8と、さらに悪化が見込まれている。自動車部品を除く、すべての製造業で悪化を予想。



- ・自動車部品は14.5ポイントの改善を見込む。トヨタ自動車が増産を計画していることや、北米向け輸出が堅調なことなどが背景にあるとみられる。

〔非製造業〕

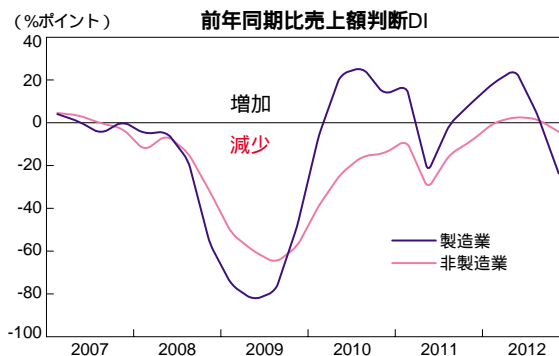
- ・業況判断DIはマイナス22.3。7～9月期（マイナス12.4）に比べ9.9ポイント悪化。
- ・すべての非製造業でDIが悪化。とくに運輸業の悪化幅が大きく、補助金終了で自動車部品などの輸送量が減少したのが要因とみられる。
- ・飲食業も大幅に悪化。不動産業は三四半期ぶりにマイナスへ。
- ・予想業況判断DIはマイナス24.0と、さらに悪化する見通し。飲食業、不動産業、運輸業は、改善を予想。

10～12月期の業況		1～3月期の予想	
改善した業種		悪化した業種	
製造業	窯業・土石 木材・木製品 印刷 食料品	自動車部品 機械器具部品 金属製品 繊維製品	自動車部品
非製造業		卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	飲食業 不動産業 運輸業
			機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品
			卸売業 小売業 建設業 サービス業

売上額・収益

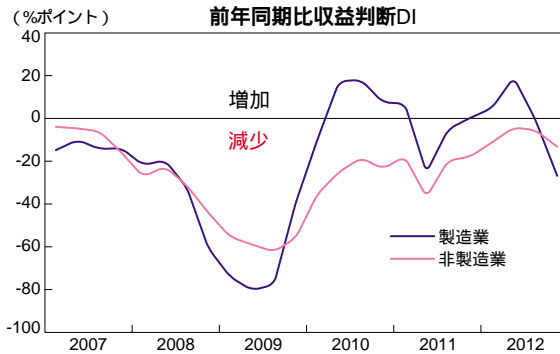
〔全産業〕

- ・前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス12.7〔減少〕。マイナスは1年ぶり。
- ・前年同期比収益判断DI（収益が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス19.2〔減少〕となった。2四半期連続のマイナス。



【製造業】

- ・ 前年同期比売上額判断DIはマイナス23.7〔減少〕。5四半期ぶりの減収。
- ・ 前年同期比収益判断DIはマイナス26.8〔減少〕。2四半期連続の減益。
- ・ 木材・木製品を除く、すべての製造業が減収減益。



【非製造業】

- ・ 前年同期比売上額判断DIはマイナス4.2〔減少〕。
- ・ 前年同期比収益判断DIはマイナス13.2〔減少〕。
- ・ 増収増益となったのは不動産業。卸売業、小売業、飲食業、運輸業は減収減益。

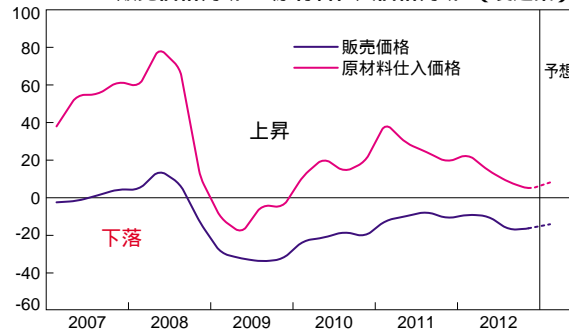
前年同期に比べた売上額		前年同期に比べた収益	
増加した業種		減少した業種	
製造業	↑	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品	↓
	木材・木製品は変わらず		
非製造業	↑	建設業 不動産業 サービス業	↓
	不動産業		卸売業 小売業 飲食業 建設業 運輸業 サービス業

販売価格・仕入価格

【全産業】

- ・ 販売価格判断DI（販売価格が3ヵ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）がマイナス14.9〔下落〕となる一方、仕入価格判断DI（仕入価格が3ヵ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は9.1〔上昇〕となった。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



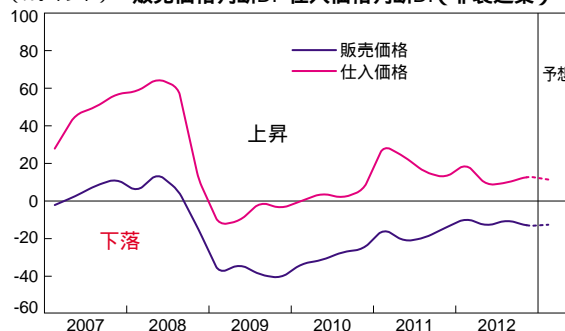
〔製造業〕

- ・ 販売価格判断DIはマイナス16.6〔下落〕。  
原材料仕入価格判断DIは4.3〔上昇〕。

〔非製造業〕

- ・ 販売価格判断DIはマイナス13.6〔下落〕。  
仕入価格判断DIは12.9〔上昇〕。
- ・ 小売業からは「どの小売店も同じような品揃えで、価格競争ばかりしている」といった声もあった。

(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



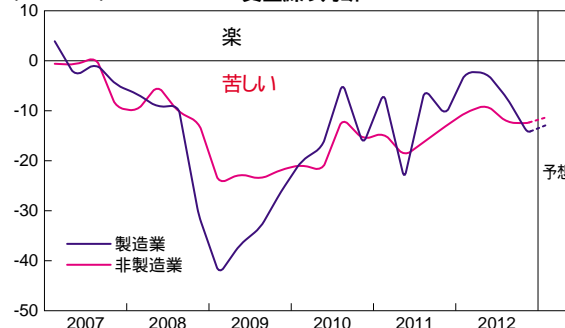
資金繰り

苦しい資金繰り続く

〔全産業〕

- ・ 資金繰り判断DI(資金繰りが3か月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス13.5〔苦しい〕となった。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス11.8〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



〔製造業〕

- ・ 資金繰り判断DIはマイナス14.5〔苦しい〕。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス12.7〔苦しい〕。

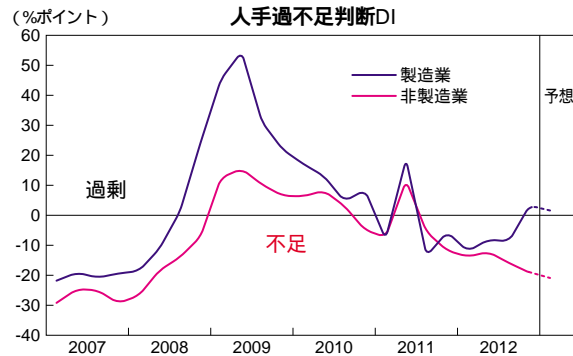
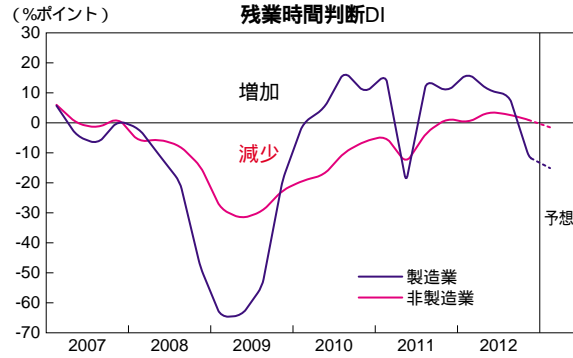
〔非製造業〕

- ・ 資金繰り判断DIはマイナス12.5〔苦しい〕。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス11.2〔苦しい〕。

雇用

〔全産業〕

- ・ **残業時間判断DI**（残業時間が3ヵ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス4.9〔減少〕となった。減少は1年半ぶり。
- ・ **予想残業時間判断DI**はマイナス7.6〔減少〕。
- ・ **人手過不足判断DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス9.2となり、人手不足感が出ている。
- ・ **予想人手過不足判断DI**はマイナス11.0〔不足〕となっている。



〔製造業〕

- ・ **残業時間判断DI**はマイナス12.0〔減少〕。1年半ぶりの減少。**予想残業時間判断DI**はマイナス15.1〔減少〕。
- ・ **人手過不足判断DI**は3.2〔過剰〕。**予想人手過不足判断DI**は1.6〔過剰〕。

7～9月期に比べた残業時間	
増加した業種	減少した業種
製造業 木材・木製品 印刷 食料品	自動車部品 機械器具部品 金属製品 繊維製品
窯業・土石は変わらず	
非製造業 小売業 建設業 サービス業	卸売業 不動産業 運輸業
飲食業は変わらず	

人手過不足感	
人手過剰	人手不足
製造業 自動車部品 金属製品 木材・木製品 繊維製品	機械器具部品 窯業・土石 印刷 食料品
非製造業 小売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

〔非製造業〕

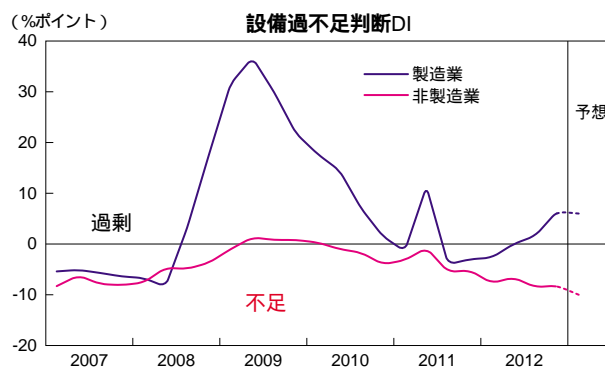
- ・ 残業時間判断DIは0.9〔増加〕。予想残業時間判断DIはマイナス1.5〔減少〕。
- ・ 人手過不足判断DIはマイナス19.1〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス20.9〔不足〕。
- ・ 建設業では職人不足の声が多く聞かれるようになっている。

設 備

設備投資実施 製造業28.6 非製造業28.7%  
 設備投資計画 製造業28.7% 非製造業20.9%

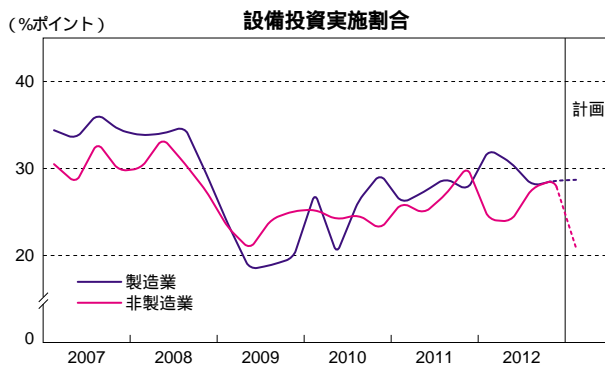
〔全産業〕

- ・ 設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス1.4〔不足〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス2.5〔不足〕。
- ・ 10～12月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.6%。
- ・ 1～3月期に設備投資を計画している企業は24.6%となった。



〔製造業〕

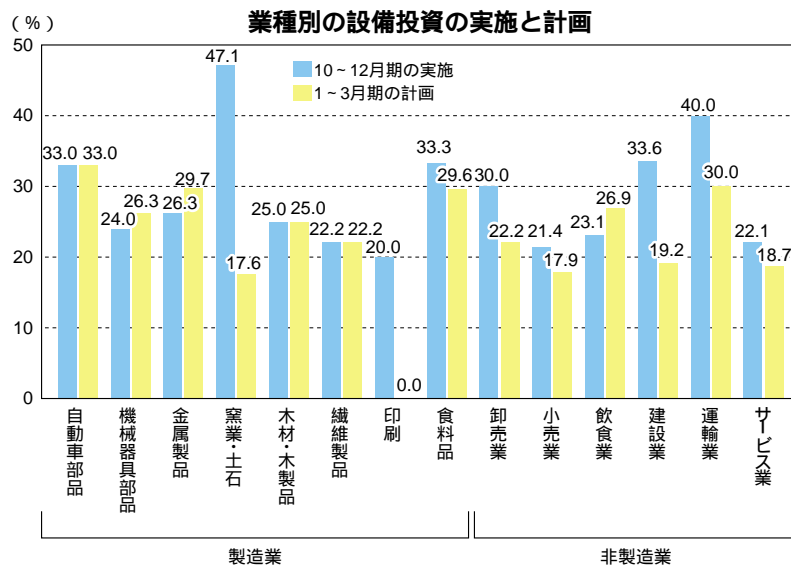
- ・ 設備過不足判断DIは6.4〔過剰〕。
- ・ 予想設備過不足判断DIは6.0〔過剰〕。
- ・ 10～12月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.6%。
- ・ 内訳としては、機械・設備の新增設が46.2%、機械・設備の更改が31.7%、車両28.8%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が43.3%、能力増強が31.7%、合理化・省力化が30.8%などとなった。
- ・ 1～3月期に設備投資を計画している企業は28.7%となっている。



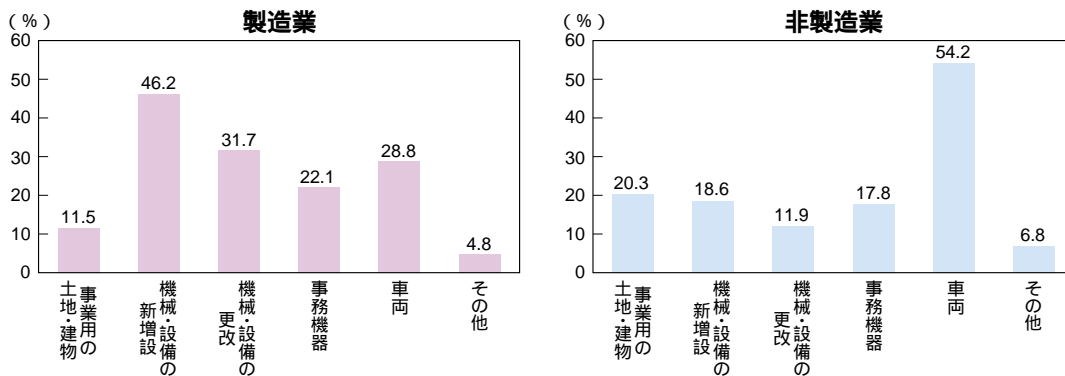


〔非製造業〕

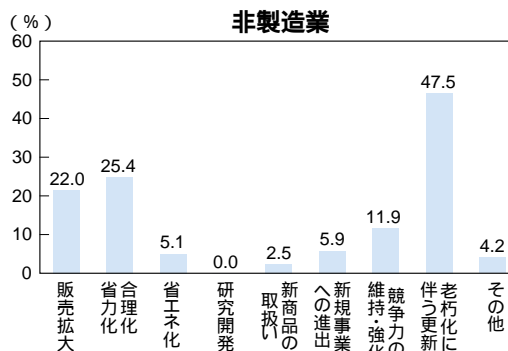
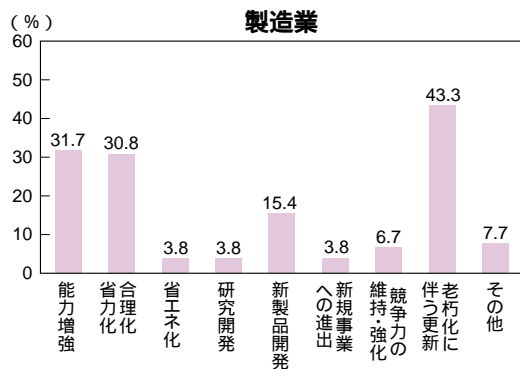
- ・ 設備過不足判断DIはマイナス8.2〔不足〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス10.0〔不足〕となっている。
- ・ 10～12月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）**を実施した企業は28.7%。
- ・ 内訳としては、**車両**が54.2%、**事業用の土地建物**が20.3%、**機械・設備の新增設**が18.6%、**事務機器**が17.8%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、**老朽化に伴う更新**が47.5%、**合理化・省力化**が25.4%、**販売拡大**が22.0%、**競争力の維持・強化**が11.9%などとなった。
- ・ 1～3月期に**設備投資を計画**している企業は20.9%となっている。



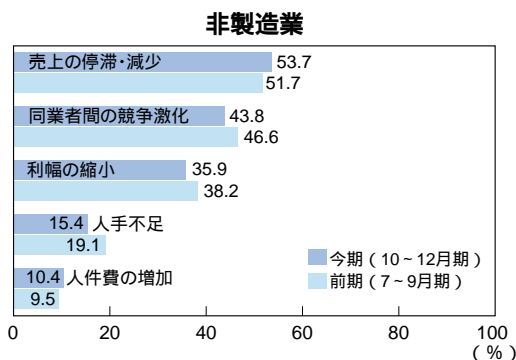
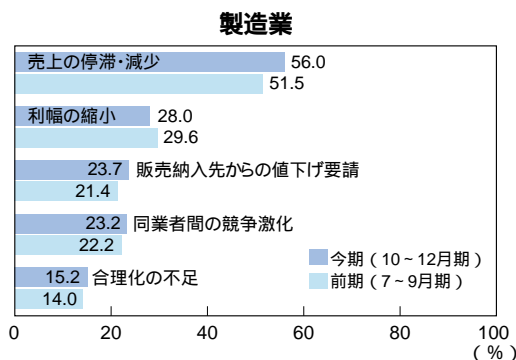
10～12月期の設備投資の内訳



### 10～12月期の設備投資の主な目的



### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策

